

かわらばん 第1号



～第1回豊間地区防災緑地ワークショップが開催されました～

平成 25 年 4 月 20 日(土)に「豊間地区防災緑地ワークショップ」が豊間公民館にて開催され、豊間地区の住民 14 名の方が出席されました。

「防災緑地を知ろう」をテーマに、防災緑地の計画概要の説明、蓑茂壽太郎先生(公園財団理事長、元東京農業大学副学長)による講話とワークショップ形式により様々な意見交換を行いました。

ワークショップは、豊間支援・東京専門家グループに支援していただきました。

ワークショップ全 4 回の流れ

- 第 1 回ワークショップ
防災緑地を知ろう
- 第 2 回ワークショップ(5 月 18 日(土))
防災緑地のイメージを考えよう
(使い方などについて)
- 第 3 回ワークショップ(6 月 9 日(日))
防災緑地のイメージを考えよう
(植生などについて)
- 第 4 回ワークショップ(6 月 30 日(日))
まとめ/計画内容と今後の取り組みについて

防災緑地計画の概略説明

いわき建設事務所より、“防災緑地”には、**防災機能、地域振興機能、景観・環境の再生・形成機能**の 3 つの機能があり、**防災機能**を満足させることを念頭に、このワークショップで**地域振興機能、景観・環境の再生・形成機能**を検討して欲しいとの説明がありました。

◆防災機能

- i) 津波を減衰し、浸水被害範囲を軽減し、避難時間を確保する。
- ii) 津波による漂流物を捕捉し、漂流物の衝突による被害を軽減する。

◆地域振興機能

海洋レクリエーションや自然とのふれあいの場として活用する。

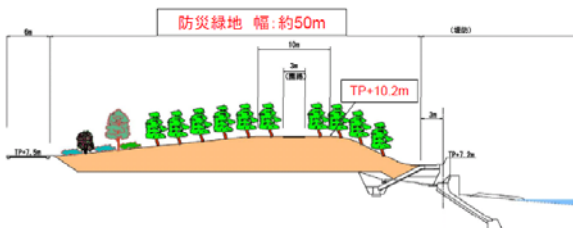
◆景観・環境の再生・形成機能

地震や津波で失われた景観や環境の再生・形成を図る。

横断イメージ (諏訪川より北側)



横断イメージ (諏訪川より南側)



第 1 回 豊間地区防災緑地ワークショップ プログラム

1. はじめに
 - ・開会挨拶
 - ・スタッフ紹介
2. ワークショップの進め方
 - ・ワークショップとは
 - ・ワークショップ全 4 回の流れ
 - ・本日の予定
3. 防災緑地計画の概略説明
4. 豊間の防災緑地に思うこと
5. 昨年度の復興まちづくりワークショップで出された住民意見の紹介
6. グループディスカッション
 - ・参加者の自己紹介
 - ・話し合い
 - > 気づいたこと > 感じたこと > こうしたいこと など
 - ・発表
7. おわりに
 - ・まとめ
 - ・次回までの宿題(使い方、欲しい機能や施設、配置)
 - ・次回の予定
 - ・閉会の挨拶

今後のスケジュール

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度						
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	
ワークショップ	全4回									
防災緑地		設計	工事							
海岸			工事							
道路			工事							

蓑茂先生による講話「豊間の防災緑地に思うこと」

「防災緑地をつくることと住民ワークショップ」、「豊間の防災緑地に思うこと」について説明がありました。

◆住民ワークショップについて

住民ワークショップは、これから作ろうとしている防災緑地について、みんなで考える作業場であり、寄り合って参加体験して学習・創造する場である。

◆豊間の防災緑地に思うこと

- ・地域の人の思いを大事にして、地域の再デザインをしたい。
- ・地域の再デザインで“鍵”となるのが、この防災緑地である。
- ・「裏にあった山を海辺に下ろすのだ」という意識と自然に対して手をくさす覚悟が必要である。





A
班

1. 豊間の海が好き・海の思い出(残したいもの)

- 子どものころの海、浜
 - ・子どもの遊び場、学校から帰って海で遊んだ。
 - ・日の出会
 - ・築港（船溜まり）はプール代わり。
- 震災前の海、浜
 - ・砂浜が狭くなっていた。震災でさらに狭くなった。
 - ・昔は、もっと広がったし、鳴き砂だった。

2. 実寸大模型の感想

- 高い！！
 - ・塀に囲まれてしまう。家から海が見えていたので、見えなくなる。
 - ・圧迫感を緩和してほしい。
- 海がみえない
 - ・海が見えるところが大事。あるいは海を感じられる工夫がほしい。
 - ・海との距離感が遠くなったように感じない工夫を。

3. 緑地のイメージ

- 何を植えたらいいか？
 - ・みんなで育てられるものがいい。子どもが育てられるものもいい。
 - ・実のなるもの、花がさくものいい。
 - ・誰が育てるの？皆でやればよい。町会で草刈しているように。
- 施設、機能のイメージ
 - ・子どもが遊べる場所。
 - ・散歩ができる。
 - ・海に行けるようにしてほしい。
 - ・オートキャンプ場。サーファーの人たちも利用すると思う。



B
班

1. 防災緑地について思うこと

- ・津波については、避難するしかない。
- ・草花や低木程度にしてほしい。
- ・高い場所にさらに防災緑地をつくるので、さらに高く感じるのではないか。
- ・元駐車場付近に、「カマンダイ」という小高い丘が松林の中にあつた。かつてそれを削って今の状態になつた。昔の風景に戻るといふ印象になると感じた。

2. 緑地のイメージ

- 植栽のイメージ
 - ・防災緑地の木は種から育てたい。桜も種を取ってきて育ててほしい。苗を育てるイベントなどを行う。
 - ・観光に役立つ、人目を惹く、まとまった数の植物（桜等）を植えると良い。
 - ・かつて海岸全域にあつたハマナスを広げたい。諏訪川右岸河口付近に自生している。
- 施設、機能のイメージ
 - ・砂浜へは、少し海にとび出してもいいから、緩やかな階段がほしい。
 - ・車いすでも登れるスロープがほしい。
 - ・往復4kmの散歩道は、健康のために毎日地域の人が歩くような道になると良い。
 - ・駐車場、トイレはほしい。
 - ・駐車場は数十台分を2か所ほしい。北側は元駐車場のあたり。南側にも病院あたりに1か所。
 - ・諏訪川左岸河口付近に、公園のような広場があり、子供づれの人などがくつろげるような場所になると良いのではないか。サーファー用の駐車場などは、集落の北と南の端に近いほうで良いのではないか。



1. 防災緑地について思うこと

- ・ 防災緑地は高い方がよい。併せて防災緑地の内側の宅地（諏訪川北部）のかさ上げをして欲しい。
- ・ 緑地の内側に津波の緩衝用としてのウオーターラインが欲しい。
新舞子（豊間より北部のいわき市沿岸）でウオーターラインが津波の緩衝に効いた例がある。
- ・ 高さのある防災緑地が出来るのはうとうしい。が、防災緑地の出来次第で気分が変わる。
- ・ 地域外から人を呼び込むことの出来る場所にしてはどうか。
- ・ 緑地に来る人が楽しめる場所にしてはどうか。

2. 緑地のイメージ

■ 植栽のイメージ

- ・ 桜基金を活用して、ロード沿いに桜並木をつくる。
- ・ 桜並木は防災緑地の海側法面につくるのではなく陸側につくり、住民が見て楽しめるように。

■ 施設、機能のイメージ

- ・ (他所での経験を基に) 例えば、松林のなかを歩くなどというだけでは何も楽しくない。
防災緑地に（あるいは沿って）シーサイド・ウオーキングロード、サイクリングロード、マラソンロードをつくる。
北部の薄磯や南部にも延びれば、豊間の外から人を呼び込むことが出来る。
楽しいだけでなく、健康に効果的。
- ・ 防災緑地内に休む場所や食べる場所、レンタサイクルの出来る場所などが欲しい。
- ・ 防災緑地では、人が入ることが出来るようにして、管理・保全をしっかりと行う。
- ・ 防災緑地は豊間の各地域（町会？）に管理を振り分けて、自分たちでちゃんと管理する。



1. 防災緑地について思うこと

- ・ 防災緑地の高さや幅などの現計画は許容できる。10mの高さは安心感がある。
- ・ 海岸堤防と防災緑地の二重の対策は理解できる。最終的には逃げるのが大切で訓練も必要。

2. 緑地のイメージ

■ 植栽のイメージ

- ・ 緑地の陸側には桜の木を全体的に植えたい。

■ 施設、機能のイメージ

- ・ 堤防は砂浜よりかなり高いので、堤防には階段やスロープが必要。
- ・ 階段は幅の広いものが良い、幅の広いものは座って海を眺めることができる。（海に向かった階段）
階段・スロープは一定間隔でたくさん必要。砂浜で遊んでいた時に津波がやってきても逃げられる。
- ・ 公衆トイレは、バリアフリーの意味で、いくつか必要。
- ・ 諏訪川と道路との交差部分（結束エリア）は、平場も設けられるので緑地の中でも重要な場所になる。
単なる通過交通にならないように、そこに人が停まるような仕掛けが重要。
そのためにも、そこに駐車場が欲しい。
- ・ 海を眺められるような展望台（施設）が欲しい。
- ・ 諏訪川に架かる橋は、展望施設としてシンボリックなデザインにして欲しい。
- ・ 広場は舗装しておけば、イベント、祭事などの利用も含め多目的な利用ができる。
- ・ 仮設店舗を出せるようにしておけば、雇用も生まれる。
- ・ 道の駅や駐車場、工場や店舗、B&Bなどを拠点として設けると良い。
- ・ 緑地全体に、サイクリングコースや遊歩道を設け、公園的にしたい。
- ・ サーファーズの駐車場は、北側と南側の2ヶ所に緑地の内側に設ける。



多かった意見



防災緑地に対する課題

- 高い。圧迫感を緩和してほしい。
- 海を感じられる工夫がほしい。
- バリアフリーやユニバーサルデザインが必要。
- 緑地の管理や保全をどのようにするか。

など



防災緑地に対する意見

- 津波に対しては、避難するしかない。避難訓練も必要。
- 植栽は、みんなで育てられるものがよい。緑地の陸側に桜を植栽。
- 人を呼び込むためには駐車場が必要。

など



次回ワークショップまでの宿題



5月18日（土）に開催する予定のワークショップでは、

「防災緑地のイメージを考えよう」（使い方などについて）

をテーマに意見交換を行います。

第1回ワークショップで配布した資料の右側の欄に、みなさんの考えを記入してください。

参加されなかった方は、「緑地をこんな風に使いたい、こんな施設がほしいなど」を考えてください。

防災緑地に関するお問い合わせ先	意見交換会に関するお問い合わせ先	防災緑地に関するお問い合わせ先
<p>○防災緑地の維持管理に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の利用に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の整備に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の管理に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の保全に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の利用に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の整備に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の管理に関するお問い合わせ先</p> <p>○防災緑地の保全に関するお問い合わせ先</p>	<p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p>	<p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p> <p>○意見交換会に関するお問い合わせ先</p>

こちらの欄に記入してください



次回のお知らせ！

第2回ワークショップ 5月18日（土）13時半～16時 場所：豊間公民館
 テーマ「防災緑地のイメージを考えよう」 緑地の使い方、欲しい機能や施設、配置などについて

お問い合わせ先

主催 福島県いわき建設事務所 問合せ 担当：緑川、兵藤 連絡先：0246-35-6075



平成24年度住民ワークショップ： 全体12回開催	豊間復興まちづくり提言：若い世代、子どもが戻れる街を創る	◎みんな海が好きなんだ ◎気候風土がすばらしい	◎人情のある関係 ◎おいしいものがある	◎祭りを大事にしたい
前回ワークショップから見た防災緑地の姿	地域の人も、外からの訪問者も、多くの人が集い、楽しみ、交流することのできる 魅力と価値のある緑地公園を整備したい。			

防災緑地整備を考えるキーワード	復興まちづくりワークショップで出た主な意見	防災緑地整備に向けた課題：どうつくるか
◇海と砂浜の魅力をより高めるために	<ul style="list-style-type: none"> ・青い海と砂浜 ・海水浴場 ・磯遊びができる ・二見ヶ浦の磯（釣り・生物観察） ・海のそばの潮風 ・砂浜の再生 ・海砂利（貝のかけら） ・砂浜の散歩 ・塩場（塩づくり）の復活、再現 ・鳴き砂（石英が入っていて鳴く。震災前よりも鳴く。鳴き砂の会で掃除をしている。鳴き砂の南限？） ・緑地帯の高さが高くて海が見えなくなる、心配だ。何らかの工夫が必要。 	
◇灯台、二見ヶ浦、日の出、星空の輝きをより美しく眺めるために	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな景観を大切に ・二見ヶ浦と灯台の両方が見える景色 ・空気にオゾンがたっぷり ☆星の見える町で売り出す。例：何時から何時までは消灯しようとか。街灯は必要だが。（足元のみ照らすように） ・写真を撮影した時に電線のような余計なものが写らないように；電線の地中化。 	
◇祭りや伝統行事を継承していくために	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を通しての人のつながり ・月別の行事 ・諏訪神社、稲荷神社、八坂神社などのおみこし、祭、獅子舞の踊り ・伝統行事（十九夜、安波様、十五夜に行う「月見泥棒」） ・道祖神は町会ごとにあった。 ◇安波様（約60年ぶりに再開） ◇プロジェクト傳（デン）伝馬船の復活を願って始まったプロジェクト。 ◇鳥小屋：海岸に小屋を子供達が作って正月の間遊んでいた。どんと祭りみたいなかんじ。食べ物等を持ち込んで過ごした。小学校1年生から中学校3年生くらいまでが参加し、年齢を超えた絆をつくる場であった 	
◇子どもが楽しく遊べるようにするために	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちが、子供と一緒に遊んだり、過ごしたりしたので、以前は子供が多く、その子供たちも豊間に住みたがった。 ・皆が見守り、海の監視を交代で行っていたので子供が安心して遊べ、海遊びができた。 ・子供達が海で存分に遊んでいた。 ・水着のまま泳ぎに行きそのまま帰ってこられる。 ・小学生の高学年が中心に地区毎に集まり、夏休みの朝、海岸で相撲や野球をした。体操（ラジオ体操？）やお祈りもした。 ・夏は、子供達は漬物を持って浜辺に行き、海で海水浴：ジャガイモを浜辺に穴掘って焼いておやつにしたり、アサリを採ってきて、缶でゆでて食べた。もぐってアイナメを槍でついてとった。 ・この地域はかつては、公園ではなく海や山が遊び場だった。 ・小学校を拠点に放課後、大人が係りながら（児童クラブ）、元気に遊ばせる環境と制度を整える。（緑地の下草狩り等をして遊び場にするなど） ・楽しそうにやることで子育て世帯が集まる。 	
◇町内会や隣組の絆をより高めるようにするために	<ul style="list-style-type: none"> ・隣組があって仲が良い ・地域の生活の一部としての防災緑地の計画 ・観光客だけでなく、住民が利用する場所としたいので、協力したい。 ・海のイベントとして、「磯祭り」や「夜明け体操」を行う。 ・駐車場や休憩所などの整備は行政が行うので、直売所等の事業をみんなでする。（→区画整理と関係あり） 	
◇街を訪れる人により楽しんでもらえるようにするために (海水浴客、サーファー、観光客など)	<ul style="list-style-type: none"> ☆豊間を一つのテーマを持った施設（パーク）にできないか。テーマパーク的手法でのまちづくり。（→区画整理との関係、高台公園計画と関係あり） ・海や自然と触れ合える町。・・・鳴き砂、オゾン、美しい自然を活かす。 ・「健康」をテーマに・・・ウォーキングコースやサイクリングコース、海辺を走るマラソン大会。 ☆観光需要はある（観光は灯台がメイン）・・・食堂、レストラン、商店街は必要、おしゃれな民宿、カフェ。 ・滞在型観光と通過型観光、団体観光と個人観光への対応 ・道の駅、海の駅の整備（→区画整理との関係あり） ☆豊間にはサーファーが来る。東北の湘南に。サーファーのための施設、海の家、民宿 ・女性にとって魅力的であることが大切、若い女性をターゲットに。個性を持ってリピーターをつくる。 	
◇安全性を高め、震災の記憶を残すために	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿いの緑地帯の整備→津波に強い植物や桜の回廊。（→高台公園計画と関係あり） ・避難タワーや2011/3/11の「供養する場所」、「記憶に残すための場所」 	
◇その他	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪川にかかる橋：豊間の象徴になるように。 ・豊間のブランドをつくりたい。豊間の特産品、おみやげなど。 	